

「漆芸会館」設置に ついでの提言

— さぬき传统文化の発展を願って —

平成10年3月

社団法人 香川経済同友会

「漆芸会館」設置についての提言

～さぬき伝統文化の発展を願って～

目 次

はじめに.....	1
香川県の漆芸について.....	2
香川県の漆芸の特徴	
香川県の漆芸における課題点	
提 言	5
漆芸研究所と文化的観光施設を併設した「漆芸会館」の設置	
(1) 香川県漆芸研究所の再構築	
(2) 「漆芸」の文化的観光施設の設置	
おわりに.....	6
文化委員会名簿	

はじめに

来るべき本四三橋時代の到来、サンポート高松の完成に向けて、香川県は交通、産業の各方面での開発を進め、めざましい発展をとげている。

このような都市化、情報化が進む一方、我々の生活の中に「伝統文化」への関心が薄れてきている傾向にある。しかしながら、文化面を充実させることは、香川県を質の高い都市として活性化させる重要な要素だといえる。

元来、香川県には「漆芸」という優れた伝統文化がある。漆芸は誰もが知る日本の伝統工芸であるが、特に香川県の漆芸には他県にはない特性があり、後世に残すべき重要な文化である。しかし、漆芸が県の伝統文化であるという県民の意識は必ずしも高いとはいえず、全国的に見ても香川県の代表的文化としての地位を確立できていないのが現状である。このことは、伝統工芸「漆芸」において香川県が持つ優位性を考えるとまさに今後の大きな課題だといえる。県民が香川県の代表的文化として「漆芸」を再認識し全国にアピールしていくことで、文化的魅力のある都市として香川県全体により集客力が高まり、地域活性化につながるであろう。

21世紀を目前に、香川県が地域拠点として発展過渡期にある今、「漆芸」という優れた伝統文化を継承し、香川県を文化都市として発展させていく重要な時期であり、県をあげての積極的な文化行政策が望まれる。

このような情勢をふまえて、社団法人香川経済同友会では「香川県漆芸研究所」の充実をはじめとする香川県の漆芸の在り方について検討を重ねてきた。

今後、漆芸が文化面における香川県の主要な特性となり、「文化の香り高き香川」を創造していくことを目指し、ここにその提言を行なうものである。

平成10年3月

社団法人香川経済同友会
代表幹事 岩田清祐
代表幹事 赤澤淳
文化委員長 氏家チエ子

香川県の漆芸について

漆芸は日本の代表的伝統工芸であるが、特に香川県の漆芸には以下の4つの特徴がある。

〔香川県の漆芸の特徴〕

(1) 歴史

香川県の漆芸は1800年代初頭に始まり、約200年の伝統を持つ。その間、香川の漆芸の創始者である玉楮象谷や、象谷の弟で今日の香川漆芸の基盤を築いたとされる藤川黒斎、後藤塗を創出した後藤太平をはじめとし、明石朴景、磯井如真、音丸耕堂など著名な漆芸作家を多数輩出した。また、現在では、磯井正美、太田儔、大西忠夫らが活躍し、香川県の漆芸の発展に寄与している。

(2) 伝統的技法

香川県の漆芸は「蒟醬、存清、彫漆、後藤塗、象谷塗」が代表的なものであるが、これらはいずれも香川県独特の伝統的漆芸技法である。また、これらの漆器は昭和51年に四国で初めての伝統的工芸品の指定を受けている。その他、県独特の伝統的技法には、独楽塗や讃岐彫などもある。

(3) 人間国宝 — 技と作品 —

香川県ではこれまでに、5名が重要無形文化財保持者に認定されているが、そのうち以下の4名が漆芸技術によって認定されており、香川県の漆芸のレベルの高さを表している。

- ・音丸耕堂(1898~1997) —— 1955年 重要無形文化財「彫漆」保持者認定
- ・磯井如真(1883~1964) —— 1956年 重要無形文化財「蒟醬」保持者認定
- ・磯井正美(1926~) —— 1985年 重要無形文化財「蒟醬」保持者認定
- ・太田 儔(1931~) —— 1994年 重要無形文化財「蒟醬」保持者認定

また、県内には彼らの優れた作品の多くが保有されており、全国的な伝統工芸展に出品するとともに、県内でも様々な工芸展を開催して、香川県の漆芸を紹介している。

(4) 香川県漆芸研究所

「香川県漆芸研究所」は香川県立高松工芸高校の敷地内に設置されている漆芸専門の研究施設である。

県漆芸研究所は昭和29年11月に全国で唯一の漆工芸の研究所として発足した。当初は、高松工芸高校の一室を間借りしていたが、昭和35年に同校の敷地内に国費の補助を受けて床面積477 m²、実習室、デザイン室、研究員室、漆芸品陳列室、漆器乾燥用のムロを備えた鉄筋コンクリート2階建の研究所を新築した。その後、昭和42年2月に国費の補助を受けて床面積304 m²の3階を増築した。それ以後、現在に至るまで大規模な改修や改築は行われていない。そのため、近年では建物の老朽化が目立っている。

また、当研究所は方針を「重要無形文化財保持者（人間国宝）の漆芸技術並びに香川県の伝統漆芸である蒔醬、存清、彫漆などの技法を伝承し振興させる人材を育成するとともに、漆芸に関する試作、研究を行い技術の向上を図る。」（平成9年度香川県漆芸研究所要覧抜粋）としており、香川県の漆芸の研究と後継者養成を最大の目標としている。

なお、主任講師は磯井正美、太田儔、田口善次郎、塩多慶四郎であり、4人はいずれも重要無形文化財保持者である。その他に講師、指導員を11人おいているが、主任講師及び講師、指導員は県内をはじめ、東京都、埼玉県や石川県からも出張して来ており、各地との伝統文化や伝統技術の交流も図られている。

さらに、当研究所は磯井如真、音丸耕堂ら人間国宝の作品を多数収蔵しており、研究生の作品と共に展示して自由に見学できるようになっている。

また、現在、漆芸専門の研究所は全国で香川県と石川県輪島の2カ所のみになく、大変稀少価値のある研究所だといえる。

このように、香川県漆芸研究所はソフト面において質の高い、非常に充実した研究所であり、後世に残すべき重要な資産である。

これまで(1) 歴史、(2) 伝統的技法、(3) 人間国宝、(4) 香川県漆芸研究所と4つの香川県の漆芸の特徴について述べてきた。これらは他県にはない香川県固有のものであり、香川県の漆芸が持つ優位性として、香川県の漆芸を全国にアピールする上で大きな強みになる。

しかし、それにもかかわらず漆芸が香川県の代表的伝統文化であるとの認識が、県内外共に今一つ乏しいという現状は、次に述べる課題点により、その優位性を生かされていらないからであり、早急な対策が必要だといえる。

〔香川県の漆芸における課題点〕

(1) 香川県の漆芸の歴史、伝統的技法等を広く一般に紹介する施設がない

現在、県内にある漆器の展示施設には香川県文化会館、高松市立美術館、栗林公園内商工奨励館等がある。しかし、作品展示だけでなく、香川県の漆芸の歴史や現状、伝統作品の制作工程などを一貫して紹介、展示し、見学できる常設の施設はない。このような施設の設置は、県内外へ香川県の漆芸への理解や関心を深めさせ、香川県の文化的魅力を高めることにつながるといえる。さらに、文化的観光施設として、全国からの集客力を高め、香川県の観光面振興の一助ともなる。

(2) 香川県漆芸研究所の老朽化と立地的課題

香川県漆芸研究所は昭和35年に新築し、42年の増築以来大規模な改修はなされておらず建物の老朽化が進んでいる。また、所在地が香川県立高松工芸高校の敷地内であるため、一般の人に存在が知られにくく、研究所の知名度の低さにつながっている。また、研究所内陳列室に優れた人間国宝の作品を多数展示してあるにもかかわらず、気軽に見学できないため県民に十分に知られていないという問題点もある。

(3) 後継者養成の課題

香川県漆芸研究所の研究生の修了後の状況は、修了生303名（平成8年度末現在）のうち、漆芸作家60名、漆器業・漆工技術者134名と漆芸関係へは64%が就業しているのが現状である。

後継者の養成は、21世紀に向けてこれまでの「漆芸」の伝統文化を継承し、後世に伝えていくための非常に重要な課題である。また、産業面において漆工芸を香川県全体に、より定着・発展させていくためには、技術者の養成及び漆工技術のさらなる研究・開発が必要である。そのためにも、香川県漆芸研究所において、研究生の進路指導や、漆芸の技術研究・開発のための設備の設置など、後継者養成の受皿を充実させるための改善策が望まれる。

提 言

漆芸研究所と文化的観光施設を併設した「漆芸会館」の設置

(1) 香川県漆芸研究所の再構築

香川県漆芸研究所は、後継者養成と漆芸技術の発展のために、現在のソフト面の質の高さを生かしつつ、より高度な技術研究・開発のできる設備を備えた研究所へのさらなる充実が必要である。また、全国的に知名度を高め、一般に訪れやすくするためには、設置場所を現在の県立高松工芸高校敷地内から移転して独立した施設にすることが望まれる。

(2) 「漆芸」の文化的観光施設の設置

香川県の代表的伝統文化として、漆芸の魅力を広く一般に紹介し、関心を高めさせるために漆芸の紹介を目的とした文化的観光施設を設置する。

具体的内容については以下のようなものが望まれる。

- 香川県の漆芸の歴史や現状について解説した資料室。
- 人間国宝をはじめとした香川県を代表する歴代の漆芸作家とその作品を紹介している常設の展示場。
- 蒟醬、存清、彫漆等の伝統的技法の実演及び作品の制作工程を見学できる施設。
- 「体験コーナー」や漆器の「実演・即売コーナー」を設けた参加型施設。

(1)、(2)を兼ね備えた施設として漆芸研究所と上記の文化的観光施設を併設した「漆芸会館」の設置を提言する。

このような施設の設置により、県内外ともに漆芸が香川県の代表的伝統文化であるとの認識が定着し、「漆芸会館」が県の観光地の一つとして観光面の振興、ひいては地域活性化につながることを期待する。

おわりに

文化委員会では、平成9年8月より、香川県の漆芸について勉強会及び討議を重ねてきた。参考までに活動記録を記す。

1) 平成9年8月7日：第21回文化委員会

勉強会 「香川の漆芸と香川県漆芸研究所について」

香川県教育委員会事務局 文化行政課長 菅原良弘氏

2) 平成9年10月13日：第22回文化委員会

見学会 「香川県漆芸研究所」見学

3) 平成10年2月6日：第23回文化委員会

提言案検討

社団法人香川経済同友会
文化委員会名簿

代表幹事	岩田清祐	(株)四国新聞社	代表取締役副社長
代表幹事	赤澤 淳	四国化成工業(株)	代表取締役会長
委員長	氏家チエ子	氏家薬局	代表者
副委員長	川人洋造	川鶴酒造(株)	代表取締役
副委員長	松浦玲子	松浦工業(株)	代表取締役
常任幹事	鎌田正隆	鎌田醤油(株)	会長
幹事	宮武 清	(株)宮武書店	取締役会長
委員	石川久夫	(株)石川組	相談役
	尾碓正澄	(有)お茶の亀屋翠松園	代表取締役社長
	北川 潤	キッス調理技術専門学校	校長
	榊 一郎	(株)榊紙店	代表取締役会長
	富永京子	(有)リンゴスクール	代表取締役
	富山マユミ	詫間港運(株)	代表取締役
	中庭恵美子	(株)三創	代表取締役社長
	中村谷年威	(株)中村谷	代表取締役
	古市壽子	(有)スエヒロ銀波亭	代表取締役会長
	政本公男	香川県教科図書(株)	代表取締役社長
	眞野泰一	宝田電産(株)	常務取締役
事務局	石丸尚志	(社)香川経済同友会	専務常任幹事事務局長
	石川葉子	(社)香川経済同友会	総務主事

「漆芸会館」設置についての提言

— さぬき伝統文化の発展を願って —

平成10年3月31日 発行

発 行 社 香川経済同友会

専務常任幹事 石 丸 尚 志
事務局長

〒760-8691 高松市紺屋町1番地3
紺屋町清水ビル6階
TEL 087-821-8754
FAX 087-823-1160

(社)香川経済同友会提言 No.24